

「春の星空」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この連休、北軽井沢は例年の5月始めよりも寒かった。しかし、夜は晴れた日も多く、春の星座をよく観察することができた。



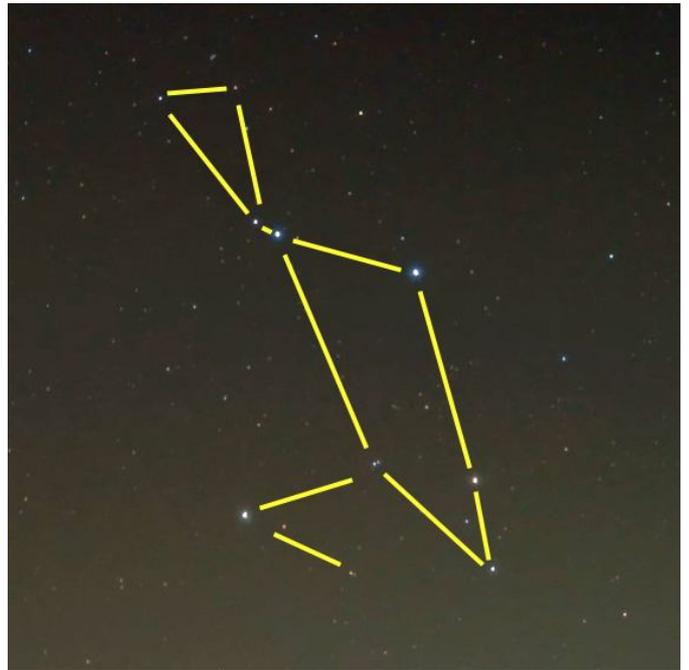
北軽井沢小学校裏のレタス畑に、友人一家と星の観察に出かけた。春の夜空は、夏や冬に比べると華やかさはない。天の川も高度が低く、黄砂や花粉でシーイング（大気の透明度）もあまり良くないことが多い。

上の写真を見てみよう。南の空を写したものだ。左



上の輝星が、おとめ座のスピカだ。このあたりには明るい星がないので、よく目立つ。その右にある、いびつな台形が「からす座」である。

からす座は、春の星座の代表の一つだが、明るい星はない。しかし、4つの同じような明るさの星で四角形を形作っているのだから、よく目立つ。東京でもちょっと慣れると見つけられる。



私はからす座の「星座線」はこのように結ぶのが正しいと思っている。からす座はうみへび座の背中につかっているのだが、この形だと、うみへびの背中を突いているカラスの姿が思い浮かぶ。



その頃西の空に目を向けると、冬の星座が沈んでゆく姿を見られる。写真は「沈む冬の大三角」だ。上がプロキオン、時計回りにベテルギウス、シリウスである。上空にある時よりずっと巨大に感じる。これは太陽や月が、地平線に近い時に大きく感じるのと同じで、目の錯覚である。実際の視角度は変わらない。